

平成31年度 自己評価計画

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 学ぶことのよろこびの実感	(1) ICTを利活用した授業の展開	学力向上G (教 務)	学業に集中して取り組む態度の定着が不十分で、意欲的に学習活動に向き合うことのできない生徒が多い	【努力指標】 ICTを利活用した授業を行うことにより、意欲的に学習に取り組みさせる	ICTの利活用により、意欲的に学習に取り組んだ生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	教員アンケート
	(2) 生徒の興味関心を高める授業の展開		学習内容に興味関心を持つことができず、授業に主体的に取り組むことのできない生徒が多い	【成果指標】 興味関心を高めるような授業改善により、生徒が主体的に授業に取り組む	授業に主体的に取り組んだ生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	生徒アンケート
2 社会人基礎力の向上	(1) 社会人として求められる挨拶・言葉遣い指導	キャリア教育G (進路指導) (生徒指導)	基本的な挨拶や場に応じた適切な言葉遣いを苦手とする生徒もいる	【努力指標】 儀式や学校行事の形態を緊張感のあるものにし、望ましい挨拶や言葉遣いができるよう指導する	人前で挨拶や発表する場面を経験できた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	儀式・行事の観察
	(2) 時間の自己管理意識を高める指導		就業の影響による授業の欠席・遅刻も見られるが、日常的に授業の欠席・遅刻が目立つ生徒も多い	【成果指標】 基本的な生活習慣の大切さを意識することができ、授業の出席率が向上する	全授業の出席率80%以上の生徒が A：70%以上 B：50%以上 C：30%以上 D：30%未満	C・Dの場合は、次年度、一層の教員の意識の向上を図る	生徒の出席状況
	(3) いじめを許さない姿勢の確立		それぞれに事情を抱えた生徒が多いため、ねたみや嫉妬などいじめにつながりやすい感情を減らすような取組が求められる	【努力指標】 いじめ予防の観点から、生徒が自己有用感を高められるような行事を多く取り入れる	自己有用感が高まるような行事を A：月1回のペースでできた B：2月に1回はできた C：年に数回できた D：できなかった	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	行事の実施状況
3 地域愛の育成	(1) ふるさと学習への積極的な参加	地域理解G (生徒会)	ふるさとに対して愛着を持つ生徒は多い(昨年度90%)が、ふるさとに関する体験学習への参加姿勢に消極的な生徒もいる	【成果指標】 生徒一人一人が、ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組む	ふるさとに関する体験学習に取り組むことができた生徒が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	生徒アンケート
	(2) 協働的に活動する場面の設定		協働的な教育活動の企画・実施が特定の教員に偏っている	【成果指標】 教員一人ひとりが、協働的な活動を取り入れた教材を開発する	協働的な活動を取り入れた教材を開発できた教員が A：5名以上 B：4名 C：3名 D：2名以下	C・Dの場合は、次年度、計画や方策を再考する	教員アンケート